

◎保育施設長がイクボス宣言＝スタッフの就業継続に期待―広島県

17/02/06 18:00 NH61

広島県内の保育施設長の代表が6日、県庁で「イクボス宣言」を行い、部下の仕事と家庭の両立を支援し、自らも仕事と私生活を楽しむ上司になるとアピールした。立ち会った湯崎英彦知事は「保育施設長が自ら変わり、より働きやすい職場をつくっていこうという姿は大変心強い。人材不足が深刻な保育士の就業継続に大きく寄与すると期待している」と語った。

イクボス宣言には、広島県保育連盟連合会に加盟する広島市を除く公立・私立の認可保育施設長445人が参加。このうち県庁には25人が訪れ、宣言に臨んだ。

代表して同連合会の小川益丸会長が「保育という日本の未来を創る仕事に生きがいを持って働き、かつ、私生活も楽しむことができる環境づくりを進める『イクボス』になることを誓います」と宣言した。県によると、保育施設長のイクボス宣言は、全国的にも例がないという。

湯崎知事と共に立会人を務めたNPO法人ファザーリング・ジャパン（東京都千代田区）の安藤哲也代表理事は「時間はかかるかもしれないが、保育士が輝く職場をつくることにより、次世代も希望を持ってこの職業に就いてもらえるのではないかと期待を寄せた。（了）

関連情報

人物 湯崎英彦氏のプロフィール

※本印刷物は時事通信社 iJAMP サービスから印刷されました。

Copyright Jiji Press Ltd. All Rights Reserved.